

Title	ドラマのシナリオに見られる「慰め発話」の諸相
Sub Title	
Author	田中, 妙子(Tanaka, Taeko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2012
Jtitle	日本語と日本語教育 No.40 (2012. 3) ,p.49- 67
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0049">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0049</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# ドラマのシナリオに見られる 「慰め発話」の諸相

田 中 妙 子

## 1. 研究の目的

現在、依頼・勧誘・謝罪等、様々な表現意図を持つ言語行為に関して分析が行われており、日本語教育においてもそれらの知見を取り入れた形で多くの会話教材が見られる。日常会話の中でもこうした典型的な言語行為を学習者が詳しく学ぶことは重要なことであるが、一方で学習者が日々直面する言語行為はそれだけに限られていない。「お願いをしたり、誘ったりする会話の練習はよくするので、だいたいの言い方がわかるが、日本人にもっと深い考えや気持ちを伝えたい時、どんな表現を使ったらよいのか、迷うことが多い」という学習者の声を聞くことがあるが、正にそのような微妙な感情を相手に伝える方法が、学習者のレベルが上がるとともに、重要になってくるのではないだろうか。

本稿では、このように会話において感情を伝える表現の中で、特に相手を慰める発話（以下、「慰め発話」と呼ぶ。）を取り上げ、日本語母語話者が相手を慰めるといふ表現意図で発話をする際、どのような方策を用いるか、またそこにはどのような言語形式上の特徴が見られるかということを明らかにしたい。

## 2. 先行研究

「慰め」に関する言語行為は、「励まし」とともに論じられることが多い。両者を含めた範囲の研究には、関山 (1998)、黒川 (2001)、塩見・米澤 (2008)、中野・正保 (2011) などが挙げられる。関山 (1998) はポライトネ

ス理論の観点から、会話参加者間の心理的な距離や場面の改まり方の度合いといった変数がポライトネスストラテジーに影響を与えること、また性別がストラテジーの選択に影響を与えることを明らかにしている。黒川(2001)は関山(1998)の研究を踏まえて「励まし」表現のアンケート調査、およびロールプレイを行い、励ます側と励まされる側には心理状態のギャップが引き起こす認識の違いがあること、実際の発話場面での「励まし」行為の特徴などを明らかにしている。塩見・米澤(2008)は日本語教育の立場からシナリオに見られる「慰め・励まし」の表現の様相を広く分析している。また、言語学での研究成果を生かしつつ、臨床心理学的な観点から「励まし」の言葉を捉えた中野・正保(2011)の研究もある。

こうした一連の研究の中では「慰め」「励まし」をどのように捉え、定義しているかを整理すると、以下のようになる。

#### 関山(1998)「慰め・激励」表現

「何らかの困難や苦勞に直面している者に対し、その困難や苦勞を癒したり、克服する手助けをすることを目的とした発話行為」

#### 黒川(2001)「励まし」行為

「何らかの不幸や困難に直面している相手の心理状態を回復させることを目的とした言語的・非言語的行為」

#### 塩見・米澤(2008)「慰め・励まし」

「相手が肉体的・精神的に問題・困難を抱えていると認知した際の人がとる行動」

黒川(2001)、および塩見・米澤(2008)は、関山(1998)の定義を踏まえ、それぞれの研究目的に合わせた定義を行っているが、いずれも関山(1998)が述べているように、「慰め」と「励まし(激励)」を実際の発話の中で区別することは困難であるため一括して論じるという方法をとっている。しかし、本稿では3章で述べるように、「慰め」と「励まし」を別の言語行為として定義し、「慰め」に特化した用例の分析を行う。これは、表現意図が

異なるものを分けることにより、コミュニケーション上の方策や言語形式の特徴をより明確にし、教育への応用を目指すためである。

### 3. 「慰め発話」の定義

本稿では「慰め発話」を「会話において、悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っている相手に対し、その負の感情を和らげる、あるいは解消させることを目的として行う発話」と定義する。一方、これまで「慰め」と一括して捉えられることの多かった「励まし」は、「悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っている相手に対し、負の感情を解消させつつ、将来における何らかの積極的な行為を促す発話」と定義して本稿の分析対象とは分けて捉える。前者は相手の気持ちを落ち着かせることに主眼があり、後者は相手を奮い立たせて何らかの行為を行わせることに主眼があるので、選択する表現も異なると予想されるためである。

黒川 (2001) が励ます側と励まされる側とで認識が異なることが多いと指摘するように、慰め発話を考える際も、慰める側と慰められる側との認識のずれが見られる。慰め発話の発話者（慰める側）と受信者（慰められる側）という関係から例1を見ると、発話者（七生）の「慰め」を受信者（七子）が「お世辞」と捉えている。例2は逆に、発話者（神宮寺）は「慰め」発話をしているという意識がないにもかかわらず、受け手（仁子）が「慰め」と捉えている例である。

例1【七子 27】[七生は七子が作ったまずそうな中華を食べる。]

七生「……思ったより……おいしいよ」

七子「……うそばかり……ああ……まずい（と咳き込み）辛すぎるし」

七生「辛すぎないよ……」

七子「いいのよ、そういう見え透いたお世辞は。黙ってなさいよ」

例2【不機嫌 225】[仁子は失恋をして悲しんでいる。神宮寺は冷静な女性数学

者。]

仁子「何回失敗しても、ちっとも恋が上手くならない」

神宮寺「あなたって、生き物としてまっとうよね」

仁子「はい？」

神宮寺「ちゃんと喜んだり、苦しんだり、泣いたりして」

仁子「わかりにくいけど、慰めて下さってるんですね」

神宮寺「いいえ、ただの感想。プラス、人類への希望」

このように発話者と受信者が常に共通の認識を持っているとは限らないため、それぞれの立場からの観察も必要であるが、本稿では用例採取の条件を次のように規定する。

- ① ドラマの展開や発話から、登場人物 (A) が悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っていることが推測される。
- ② ドラマの展開や発話から、登場人物 (B) が登場人物 (A) の負の感情を認識し、好意的にそれを和らげよう、または解消させようとしていることが推測される。

つまり、受信者が負の感情を持っていることが明確で、発話者もそれを認識した上で受信者を慰めているという関係が成立している場合に「慰め発話」が行われたと考える。「慰め発話」の受信者がその発話をどのように受け止めるかは問題にしない。したがって、先に挙げた例のうち、例1は慰め表現として扱うが、例2は慰め表現とは考えないということになる。

#### 4. 用例資料

用例資料として、テレビドラマのシナリオを使用する。シナリオの会話は実際の日常会話と異なる点もあるが、人の感情の起伏や人と人との感情の交流を描くことが多いというドラマの性質上、慰めるという行為が比較的多く現れる。また、ストーリー展開をわかりやすくするために個々の発話の表現意図が比較的明確で、慰め発話か否かの判定がしやすいという利

点もある。このようなことから、シナリオを用いて表現の多様性を見る方法を採ることとした。

用例の出典は【 】内に略称とページ数を記し、稿末の「用例資料」に詳細を示す。また、以下の用例では、慰め発話として注目する箇所を下線で示し、慰め発話が複数に及ぶ場合は全体を網かけで示す。発話者が交替するところは「／」で区切る。

## 5. 分析

以下の分類は、何をどう表現することが相手を慰めるための方策になるかという観点から行う。方策は大きく次の八つに分類できる。分類には、「話し手」(=慰める側)、「相手」(=慰められる側)、問題(=負の感情を引き起こす原因となった事柄)という用語を用いる。

- (1) 相手の認識を否定することによって慰める
- (2) 相手に関心を寄せることによって慰める
- (3) 相手を肯定することによって慰める
- (4) 問題を取り除く助けとなる事柄を示すことによって慰める
- (5) 問題の対処方法を示すことによって慰める
- (6) 問題に対する異なった視点を示すことによって慰める
- (7) 問題は不可避だったということを示すことによって慰める
- (8) 相手の意識を問題からそらすことによって慰める

各方策と用例は一対一で対応するわけではなく、一つの用例が複数の方策を併用している例も多く見られる。

関山(1998)の談話完成テストによるストラテジーの種類と機能の分類、黒川(2001)のアンケート調査による「励ます言葉」の分類、塩見・米澤(2008)のシナリオ調査による「慰め・励まし」の表現の分類にそれぞれ重なる部分もあるが、意味的な側面から細分し、言語形式の特性も見ることが本稿の目的である。

### 5-1 相手の認識を否定することによって慰める

相手の負の感情の原因となっている認識を「その認識は正しくない」というように否定して慰める方策である。

#### 5-1-1 否定表現を用いる

相手の負の感情の原因となっている認識を「そんなことはない」「それは違う」「～ではない」等の否定表現を用いて否定することによって慰める。例3～5のように否定のみで終わる場合もあるが、具体的に相手のどんな認識が違っているのかを示す場合もある。

例3【あかね 138】[おふみは死んだ夫に大事にしてもらったと感謝している。] おふみ「それなのに、あたしときたら、あの人に何もしてやれなかった」/秀弥「そんなことないわ、あなたは――」

例4【楽園の 195】[母親と息子。] 涼子「私……肝心なことを何も言い出せなくて……駄目な母親よね」/優「……お母さんは、駄目じゃないよ」

例5【センセイ 76】[毒キノコを食べた母親のスミヨを見て、息子が心配している。] 宏「(泣きながら) お母さんが死んじゃうよ」/スミヨ「オオワライタケじゃ死なないわよ」

#### 5-1-2 否定的な意味のことを述べる

5-1-1のような否定表現は用いられていないが、相手の負の感情の原因となっている認識を意味的に否定して慰める方策である。例6, 7では、相手の「自分は地味で暗くて、もてない」という自己評価、「他人の母親を自分の親だと思いたい」という照れを否定している。

例6【うぬぼれ 356】[自分に自信が持てない女に対して] うぬぼれ「自己評価が低いんですね。アナタはご自分で思っているより遥かに魅力的だ。それなのに私なんか私なんかって、ずっと日陰を歩いて来たんですね。(略)」

例7【夏の 166】[渚は洋子の母親と暮らしている。ハマナスは母親の営む食堂の名前。] 渚「だから、ハマナスのお母さんが、ほんとにお母さんだったらなあって……変ですよ、こんなこと……子どもみたいで」/洋子「ううん、あなたの方がよっぽど娘らしいわ」

### 5-2 相手に関心を寄せることによって慰める

相手が負の感情を持っていることに対して同情、共感、理解など、何ら

かの関心を寄せていることを示すことによって慰める方策である。

### 5-2-1 同情の気持ちを示す

相手に同情する気持ちを示す発話によって慰める。言葉としては、「大変だった」「気の毒だ」「それはひどい」「災難だった」というような定型表現が挙げられる。

例 8【火垂る 166】[清太は戦争で母親を亡くし、親戚の久子の家へ行く。] 久子  
「清太さん……大変だったわね」

例 9【抱き 132】[発作を起こして暴れている自閉症の弟を止めようとして怪我をした未来子に対して、通りがかりの女性がハンカチを差し出す。] 中年女性  
「弟さんですか？ お気の毒に……。大変ですね」

### 5-2-2 相手を心配する気持ちを示す

相手を心配する気持ちを示す発話によって慰める。例 10 では、働きすぎて疲労がたまっていた相手への心配を示すことによって、会社を解雇された相手の気持ちを和らげている。例 11 では、農作業で手が荒れてしまった相手への心配をすることによって、農業を辞めたいと悩んでいる相手の気持ちを和らげている。

例 10【祖国 110】[会社を解雇された夫に対して] 玲子「それにね、リストラの話聞いたとき、私本当は心のどこかでホッとしたのよ。だってあなた、ものすごく無理してたもの今の仕事。ハラハラしていたのよ。身体も心も緊張でカチカチになって、肩なんかパンパンに張ってたじゃない。この人この調子で働き続けてたらいつかきつと病気になるって倒れちゃうと、私思ってた」

例 11【大麦 17】[家業の大麦作りを辞めたいと言い出した息子の嫁の美和子に対して] 文子「まったく経験がないのに、よくやってきたよ。ホップなんて手作業が多い大変な仕事なのに、東京育ちのあんたが…。(美和子の手を取って)ひび割れてガサガサ。東京にいた時はこんな手じゃなかったよね」／美和子「……」／文子「でも、これは美和子が頑張ってきたことの証よ。これからじゃない。ようやく仕事に慣れたのに……」

### 5-2-3 相手の気持ちを察する

相手がどのような負の感情を持っているかを察し、それを指摘することによって慰める。



例 12【大地 103】「家庭の問題から成績が下がってしまった受験生のいちごに対して教師が進路指導をしている。」中里「(いちごの成績表) 辛いよな……状況が分かるだけに、あれこれ言えないんだけどさ、光陽高校やめて、確実なトコ、市立2校に変更するか？」

例 13【袖 26】「岩男は吉見に亡くなった妻の思い出を話している。」吉見「やっぱ  
り淋しいでしょうね、急に一人になったから」

#### 5-2-4 相手の気持ちを理解していることを示す

相手が負の感情を持っていることを理解し、共感していることを示すことによって慰める。「わかる」「わかっている」という表現が多用される。

例 14【うみ 28】「明海と光二の兄は漁船の事故で亡くなり、光二は家業を継ぐことを嫌がっている。父親は虚しい気持ちで泣いている。」明海「やめてよ……泣かないでよ、こんなとこで……父さん……」／光二「わかってるよ！ 父ちゃんがおれたたちのこと、考えてくれるの……痛いほど、わかってる！」

例 15【魚心 238】「朋江は息子が式を挙げずに結婚することを不満に思っている。」朋江「結納をし、披露宴はこう、新居はどこで、家財道具はこう揃えてとか、——そんな風にして結婚式に向かうもんだと思ってたから」／晴海「判るわ」

#### 5-3 相手を肯定することによって慰める

相手に関する何らかの事柄を肯定することによって、相手に喜び、自信、安心などを与えて慰める方策である。

##### 5-3-1 相手をほめる

相手に関わる何らかの事柄をほめることによって慰める。ほめる対象としては、相手自身(例 16)、相手に関係する人物(例 17)、相手に関係する物事(例 18)が挙げられる。

例 16【今夜 391】「楠は食材店の店長で、いつも耕介の恋愛相談に乗っている。耕介は好きな女性があったが、諦めると言っている。」店長「おまえは満足なのか」／耕介「あのね、現実ほね、そんなに甘くはないってこと」／店長「お前も成長したもんだな。これで楠学校は卒業だ」

例 17【合い言葉 166】「信乃の父親の葬儀に来た天馬が声をかける。」天馬「(信乃に) あんたの親父さんは、立派な男だった」

例 18【海峡 147】「丸山が昌鉉の作ったバイオリンを厳しく批評した。」南伊子「気にしないで、丸山先生は口が悪いの。あなたのバイオリンはとでも……綺麗

な音だと思うわ、それに」／昌鉉「(遮って) 忘れてしまう、書くものを、何か書くもの！」

### 5-3-2 相手の存在を肯定する

相手の存在そのものを肯定し、相手に価値があることを示すことによって慰める。例 19 では相手がファンにとって唯一の崇拜対象であること、例 20 では相手が神様のおかげで来てもらえた大切な客であることを述べ、相手の存在を肯定している。

例 19【うぬぼれ 396】[サダメは自信をなくして俳優をやめようとしている。うぬぼれはサダメにファンが二人はいると言っている。] うぬぼれ「1 人だろうが 2 人だろうが 1 万人だろうが関係ないよ、ファンにとって君の代わりなんかいないんだ、それでも役者をやめると言うのなら、その旨をファンにきちんと報告するべきだ、違うかな！」

例 20【ちゅら 201】[静子は死期の近い息子を沖縄の民宿に連れて来た。静子は民宿の主の恵文と勝子にその事情を話す。] 勝子「……そうですか」／恵文「神様が連れてきてくれたお客さんだねえ、ゆっくりやっついてくださいねえ」

### 5-3-3 相手に感謝する

自分や第三者の相手に対する感謝の気持ちを述べ、相手の行為に価値があることを示すことによって慰める。例 21 は相手が自分に気持ちを伝えてくれたこと、例 22 は相手が原爆体験を乗り越えて生きていてくれたことに対する感謝の気持ちを示し、それによって相手の価値を示している。

例 21【今夜 242】[耕介は真琴に愛を告白するが、振られて落ち込む。] 真琴「でも、嬉しかったよ、ちゃんと話してくれて」

例 22【夕風 188】[平野皆美は広島原爆体験を同僚の打越に打ち明ける。打越は平野を愛している。] 打越「平野さん、生きとってくれてありがとうな」／皆美「え」／打越「本当に、ありがとう」

## 5-4 問題を取り除く助けとなる事柄を示すことによって慰める

相手の問題を取り除く助けとなるように、言葉をかけたり情報や行為を提供したりすることによって慰める方策である。

#### 5-4-1 安心させる言葉をかける

「安心して」「大丈夫だ」といった相手を安心させる発話によって慰める。

例 23, 24 のように、その発話の理由や背景を同時に述べる例が多い。

例 23【4TEEN 68】[難病にかかった息子のナオトが母親に]ナオト「僕……みんなが思ってるよりずっと長生きしてみせるよ」/花江「当たり前よ」/ナオト「だから安心して」

例 24【抱き 116】[一朗は自閉症の息子をグループホームに入所させようと考えているが、妻の朋子は反対している。]一朗「大丈夫だよ。アイツ、自分のことも、ちゃんとできるようになってきたし」

#### 5-4-2 相手にとってプラスの情報を提供する

相手の問題を解決するのを助ける情報を提供することによって慰める。

例 25 では、母親に活動を反対された相手に対して、「実は母親は喜んでい  
るのだ」という情報が提供されている。例 26 では、恋人の愛情を疑っている  
相手に対して、「恋人はあなたを大事に思っている」という情報が提供さ  
れている。

例 25【合い言葉 342】[忠志は住民運動で裁判の原告団に入ることにしたが、母親に反対される。兄の道夫が忠志に]道夫「お袋も、口ではああいう風に言うけど、ホントは嬉しいんだよ」/忠志「そうは見えないけど」/道夫「ようやくお前が、打ち込めるもんを見つけたって、こないだも喜んでたぞ」

例 26【今夜 367】[川上真琴が恋人の樋口と喧嘩をしている。耕介が仲裁に入る。]耕介「(略) 樋口は、川上さんのこと、凄く大事に思ってるよ」/真琴「違うのよ」/耕介「それは、だって見てて分かるもん」

#### 5-4-3 協力者・支持者の存在を示す

一人で苦境に立っている相手に、協力する者、支持する者がいるという情報を提供することによって、相手の孤立感を和らげ、慰める。

例 27【さとう 49】[紀子は夫が戦死したことを義母の平山美知子に話す。]美知子「紀子さん、これだけは言っとくわ。あなたはこれからも平山家の家族よ」

例 28【七子 30】[君江は入院中で、社長の板東が世話をしている。]君江「……すみません、社長にはいろいろ代わりをお願いしちゃって……。ご迷惑かけます……」/板東「何水くさいこといってんだよ。君ちゃん、私ら夫婦はあんた

の親みたいなもんなんだよ

#### 5-4-4 自分の行為の提供を申し出る

相手の問題を解決するために自分が何かをするということを申し出て慰める。例 29 のような「～てあげる、～てやる」という恩恵付与の形や例 30 のような「～するから」という省略形が多く見られる。

例 29【**男たち 51**】〔正樹は翌朝息子の弁当を作らなければならないが、早起きができるかどうか心配している。〕 慎平「そんなこと大変でもなんでもない。気にしないで眠れ。おれが起こしてやるよ、明日」

例 30【**不機嫌 248**】〔仁子は大学院を退学する予定で、後輩の佐々木と研究室の仕事の引き継ぎをしている。佐々木が悲しそうな顔をする。〕 仁子「そんな顔しないで。また時々、寄らせてもらうから」

例 31【**北の 245**】〔和夫は死期の近づいている妻のみずえのために自分で家を建てている。五郎は仕事を手伝っている。〕 五郎「ここのことはみんなオレにまかせろ。お前はみずえちゃんに出来るだけついてやれ」

#### 5-4-5 将来について希望的予測をする

相手の問題が将来解決する、あるいは改善されるということを示して慰める。「きっと、絶対、必ず」など確実性や期待を強調する副詞を伴うことが多い。

例 32【**4TEEN 75**】〔ダイの父親が亡くなった後、関係が良くなかったことをテツローが電話でルミナに話している。〕 ルミナの声「でも……」/テツロー「何?」/ルミナの声「あんなことがあったんだもん」/テツロー「……そうだよな」/ルミナの声「そのうち、きっとまた元のダイに戻るよ」

例 33【**抱き 143**】〔自閉症の弟がいる娘の未来子が婚約者にそのことを打ち明けようとしている。〕 朋子「大丈夫よ」/未来子「(驚いて、見る)……」/朋子「きっとわかってくれるわよ」/未来子「……」/朋子「アンタが好きになった人なんだから」

#### 5-5 問題の対処方法を示すことによって慰める

問題にどのように対処したらよいか、その方法を示すことによって慰める方策である。

### 5-5-1 対処方法について助言をする

対処方法について助言をして慰める。例 34～36 の「～ばいい、～ほうがいい、～なきや」のように相手の行為を促す表現や、例 37 のように自分といつしよに何かをしようと誘う表現も見られる。また、「忘れろ、心配するな、気にするな、焦るな、無理するな」といった相手の行動を制限する命令表現も多く現れる。

例 34【ボンソン 324】[就職について在日韓国人の父親に叱られた弟の明に対して兄の浩一が言う。] 浩一「じゃあない。そういう時代を生きてきたんや、親父らは。呪文や思て聞いていたらええねん」

例 35【今夜 242】[小菅は真琴に愛を告白するが、振られて落ち込む。] 真琴「小菅さん、もっと自分に自信持ったほうがいいと思う」／耕介「……」／真琴「ステキだったよ、小菅さん」／耕介「……」／真琴「すごいステキだった」

例 36【祖国 110】[会社を解雇された夫に対して] 玲子「これでやっと少し休めるじゃない。それに会社がつぶれてなくなった人と違って、あなたにはまだ働く場所があるのよ。幸せだと思わなきや」

例 37【楽園の 192】[父親を亡くした優のため、母親の涼子は優を連れて父親の実家に引っ越した。] 優「こっちに引っ越したのは、おじいちゃんのためじゃなくて、ぼくのことを考えてのことだったの？」／涼子「(頷く)……でも、お母さん、間違っていたのかもね……優くんがそんなにこっちの生活が嫌なら、東京へ戻ろう？」

### 5-5-2 負の感情を持つ必要はないという助言をする

相手が問題に対して負の感情を持つ必要はないと助言する形で慰める。例 38 のように「～ことはない」という表現が多く現れるが、その他「～なくてもいい、～必要はない」も見られる。

例 38【男たち 279】[「おばさん」と呼ばれたことに傷ついた女に対して] 慎平「そんなことで落ち込むことないじゃない……」

例 39【4TEEN 59】[自分を醜いと言う女の友人に対して] テツロー「やめろよ。そんなふうと思う必要ねえじゃん」

### 5-6 問題に対する異なった視点を示すことによって慰める

問題に対して相手の見方とは異なる視点を示すことによって、相手の考

えを変えさせ、慰める方策である。

### 5-6-1 問題を矮小化する

相手の問題が、実はそれほど大きなことではないという見方を示して慰める。

例 40【男たち 51】〔正樹は翌朝息子の弁当を作らなければならないが、早起きができるかどうか心配している。〕 慎平「弁当ができませんくらい、どうってことはない。気にするな、そんなこと」

例 41【男たち 231】〔正樹は自分が離婚したために息子の大樹が不安定になり、友人のボールペンを盗んでしまったということを友人の慎平に話す。〕 慎平「そのくらいのことですめばいいよ、大樹くんも」

### 5-6-2 他者と比べて問題が小さいことを示す

相手の問題が、他者の問題と比べると実はそれほど深刻なことではないという見方を示して慰める。

例 42【祖国 110】〔会社を解雇された夫に対して〕 玲子「これでやっと少し休めるじゃない。それに会社がつぶれてなくなった人と違って、あなたにはまだ働く場所があるのよ。幸せだと思わなきゃ」

例 43【海峡 162】〔南伊子は夫とともに貧しい生活を送っている。医師の丸山は南伊子を気の毒に思い、お金を渡す。〕 丸山「南伊ちゃん…あなた、まだまだ恵まれてるほうだと思わんと」／南伊子「どういう意味ですか」／丸山「うちの患者さんにも若いのに難病にかかって、もう手の施しようもない人もおる。世の中には、金じゃどうしようもない苦労もあるってことだ」

### 5-6-3 問題を普遍化する

相手の問題が、誰にでも起こり得る普遍的・一般的な問題であるという見方を示して慰める。

例 44【黄落 89】〔牛乳を温めていてやけどをし、情けない気持ちになっている義母に〕 蔭子「お年ですもの、誰だって」

例 45【女王 233】〔同僚に批判された小学校教師に対して生徒の和美が言う〕 和美「何でも完璧に出来る人なんていませんよ。先生は一生懸命やってるんだし」

例 46【魚心 236】〔朋江は息子が離婚歴のある女性と結婚することについて友人のすが子に不満を言う。〕 すが子「子供はそうやって親を捨てていくもんじゃ

ないの?」/朋江「捨てられるの? 親——」/すが子「息子が嫁を貰うってことは、そういうことよね」

#### 5-6-4 自分と相手の問題の共通点を示す

相手と同じような経験を述べ、相手だけが特別なわけではないことを示して慰める。例 47 では、慎平が経験した親子関係の問題を正樹も同じように経験したことが述べられている。例 48 では兄弟が母親の病気に対して同じように心配しているということが述べられている。

例 47【男たち 292】[慎平は娘のめぐみとの関係で悩んでいたが、ようやく関係が修復された。] 慎平「お前と大樹がいなかったら、おれは、めぐみの本当の気持ちにも気づいてやれなかった」/正樹「おれもそうだよ」/慎平「勝手な親だからな……」/正樹「おれだって、そうだよ……いろいろあって、やっと大樹の気持ちに気づいたんだ……」

例 48【天国 100】[病気の母親が手術できないと知り、兄と姉はあきらめるが、安男だけはあきらめきれない。] 高男「オイ安男、行くぞ。今更考えたって始まらない」/優子「ヤっちゃん、気持はみんな同じなのよ。御飯でも食べながら、あとのことを考えよ?」

#### 5-6-5 別の見方を示す

問題に対して相手の否定的な見方とは異なる肯定的な見方を示し、考え方をえるように促して慰める。例 49 では娘が夫について「親に対して意気地がない」「文句一つ言えない」と怒っているのを、母親は「優しいのだ」「思いやりだ」と違う見方で慰めている。例 50 では「家族が他所へ引越してしまっても悲しくない。家族の関係や故郷はいつまでも変わらないからだ」、例 51 では「いじめられたのは皆にない良いものを持ちすぎているからだ」というように、相手の否定的な見方を肯定的な見方に変えて示している。

例 49【魚心 201】[和美が夫の恭介と喧嘩をして母親の朋江に愚痴を言う。] 和美「(睨むように見る) 恭介ってねッ」/朋江「何よ」/和美「自分の親にからつき意気地ないのッ」/朋江「——優しいのよ」/和美「文句一つ言えないの」/朋江「思いやりよォ」

例 50【六月 106】[家族が皆、故郷の小樽から出て行ってしまうことを悲しんでい

る妹のみづきに] しのぶ「(笑って) したっけ、小樽がなくなるわけでも、家族が別れるわけでもないっしょ」/ みづき「……」/ しのぶ「どこ行ったって、故郷は故郷…家族は家族っしょ」

例 51 【対岸 81】 [葵が中学でいじめを受けていたことを魚子に打ち明ける。] 魚子「(空を見上げ)……アオちゃんがいじめられてたのはさあ、きつと、嫉妬されてたんだよ。みんなにないものを持つてるから…持ちすぎてるから」

### 5-7 問題は不可避だったということを示すことによって慰める

相手の問題は、起こるべくして起こったことで、避けられないものであったということを示すことによって慰める方策である。

#### 5-7-1 相手と問題との関係を否定する

起きた問題と相手自身とは関係がないということを示すことで慰める。

例 52 【男たち 117】 [正樹は女性にお尻を触ったと誤解されている。息子の大樹がそれを気にしているので、慎平が慰める。] 慎平「たとえ触ったにしてもだ、そんなこといいじゃないの」/ (略) / 慎平「パパがね、あの人のお尻に触ったとしても、大樹が悩むようなことじゃないの」/ 正樹「俺は、触ってない!」

例 53 【楽園 48】 [男がいなくなったのは自分のせいではないかと思っている女に対して] フクオ「またそういうこと言って、全然関係ないですね」

#### 5-7-2 相手の責任を否定する

問題が起きたことに対して相手には責任がないということを示すことで慰める。

例 54 【黄落 82】 [キヌは息子の友明の嫁が腰を痛めたのは自分のせいだと思っている。] 友明「おばあちゃんが悪いんじゃないよ……」

例 55 【北の 191】 [シュウは五郎の息子の元婚約者。シュウは風呂焚きをしながら、自分のせいで五郎の息子と別れることになったと自分を責めている。] 五郎「(笑って) やめろよシュウちゃん。もうすんだことだ」/ 風呂の中 / 五郎「どっちが悪いなんて、そんなことアないんだ」

#### 5-7-3 問題が起きる当然の原因があったことを示す

起きた問題には当然の原因があったことを示して慰める。例 56 では「父親が亡くなるという大変なことが起きたのだから、ダイが不安定になるのは当然のことだ」ということが述べられており、例 57 では「母親の葬儀に



出られなかったのは仕事が忙しすぎたからで、致し方ない」ということが述べられている。

例 56【4TEEN 75】[ダイの父親が亡くなった後、関係が良くなかったことをテツローが電話でルミナに話している。] ルミナの声「でも……」/テツロー「何?」/ルミナの声「あんなことがあったんだもん」/テツロー「……そうだよな」/ルミナの声「そのうち、きっとまた元のダイに戻るよ」

例 57【生前 187】[和平は自分が母親の葬儀に出なかったため、死んだ父親に嫌われていたことを悲しんでいる。] 和平「なにしろ、俺はお袋の葬式をすっぽかしたんだ。親父も許すとは言ったんだが、許していなかったらしい……。許すはずないよなあ。『仕事が忙しい』なんて理由で、母親の葬式に来ない息子を……」/杉山「でも、実際、そうだったんですから」

#### 5-7-4 問題が起きたのは仕方のないことだったという気持ちを示す

問題が起きたのは、他に選択肢がなく仕方のないことだったという気持ちを示して慰める。

例 58【ボンソン 324】[就職について在日韓国人の父親に叱られた弟の明に対して兄の浩一が言う。] 浩一「しゃあない。そういう時代を生きてきたんや、親父らは。呪文や思て聞いていたらええねん」

例 59【再会 71】[遼太が15歳の時に別の男性と家を出て行った母親が会いに来て、昔のことを詫げる。] 遼太「好きな人が出来たら仕様がないうよ。子供なんかほっぽって——」/由江「ううん」/遼太「行くの仕様がねえよ。そういうことあると思うよ。別に、どうってことないよ」

#### 5-7-5 問題に関係する人物を批判する

問題に関係する人物を批判し、悪いのはその人物であって、相手ではないということを示して慰める。

例 60【女王 253】[小学校教師の真矢が和美の母親の章子と面談をしている。章子は家族が自分に関心を持っていないと愚痴をこぼす。] 真矢「(首振って) みんな、どうして分かってくれないんでしょう、一番大変なのはお母様だってことが……」/章子「ホントですよ」/真矢「和美さんだって、お母様がこんなに心配していることに気づいてないんでしょう?」

例 61【マチベン 150】[後藤田が同僚のたまをに昔の同級生の話をしている。] 後藤田「とにかく派手な奴だね、私とは太陽と月っていうのかな……。好きになる女性、好きになる女性、全部、奪われましたよ」/たまを「うわ、女の敵やん」

### 5-7-6 問題に対する自分の責任・過失を認める

問題に対する自分の責任・過失を認め、悪いのは自分であって、相手ではないということを示して慰める。

例 62【楽園の 192】〔父親を亡くした優のため、母親の涼子は優を連れて父親の実家に引っ越した。〕 優「こっちに引っ越したのは、おじいちゃんのためじゃなくて、ぼくのことを考えてのことだったの？」／涼子「(頷く) ……でも、お母さん、間違っていたのかもね……優くんがそんなにこっちの生活が嫌なら、東京へ戻ろう？」

例 63【七子 25】〔君江が夫と別の女性との間に生まれた少年を引き取ったため、娘の七子は不満に思っている。〕 君江「七子。……母さん、あんたにちよこっただけ、辛い思いさせてるかもしれない」／七子「……」／君江「でもね……あの子も……一生懸命なんだよ……あんたと私の、家族になりたくて」

### 5-8 相手の意識を問題からそらすことによって慰める

相手の負の感情を軽減するため、意識を問題とは異なるところへそらすことによって慰める方策である。

#### 5-8-1 問題とは関係のない話題を提示する

問題とは関係のない話題を提示し、相手の意識をそらして慰める。

例 64【火垂る 166】〔清太と節子の母親は戦争で死ぬが、節子は幼いため事情が理解できず、母親に会いたいとぐずる。〕 清太「(ごまかそうと) そや、これ、お母ちゃんから預かってきたで」／と、ヒスイの指輪を出す。／清太「節子にあげるやて」

例 65【男たち 156】〔誠は陽子の家を訪ねるが、陽子の姉に冷たくされる。〕 誠「あの……、おれ、来ちゃいけなかったんですか……」／陽子「いいのよ、気にしないで飲みなさいよ」

#### 5-8-2 冗談を言う

問題に関わる冗談を言い、相手の意識をそらして慰める。

例 66【今夜 390】〔耕介は愛する女性のために男に殴られ怪我をしている。行きつけの食材店で顔の腫れを冷やししながら〕 店長「たいしたもんだなあ」／耕介「……」／店長「これで『カサブランカ』のボギーを超えたな」／耕介「そんな格好いいもんじゃないよ。これ、替えて貰える？」／水枕を差し出す耕介。

例 67【天国 110】〔安男は年老いた病気の母親を転院させるため、古いワゴン車を

借りて来る。」 きぬ江「コレで行くの?」/安男「ああ」/きぬ江「へえ」/安男「悪いな、オンボロで」/きぬ江「オンボロ同士でお似合いだよ」

## 6. おわりに

以上、他者を慰める発話がどのような方策を以て行われるかを分類した。本稿では「慰め」と「励まし」の言語行為を分けて考えたが、両者とも相手の負の感情を解消させようとするという点では共通点があるため、実際の用例採取では判定が微妙なものも一部に見られた。また、「慰め」と「励まし」の両者が前後して現れる例も多かった。今後、「励まし」の用例調査を行うことによって、両者の重なりを明らかにしたい。また、「慰め」はそれ自体が目的となる場合もあれば、謝罪をする際や相手を説得する際など、別の目的の一部として現れる場合もある。他の言語行為との関係を更に詳しく見ていくことも今後の課題である。

### 用例資料

- ・【男たち】鎌田敏夫(1987)『男たちによろしく』立風書房
- ・【今夜】三谷幸喜(1998)『今夜、宇宙の片隅で』フジテレビ出版
- ・【合い言葉】三谷幸喜(2000)『合い言葉は勇氣』角川書店
- ・【うぬぼれ】宮藤官九郎(2010)『うぬぼれ刑事』角川書店
- ・日本脚本家連盟『テレビドラマ代表作選集』(1998年版、2001年版～2007年版)  
以下は論文内に例を記載したもの。【 】は略称。
- (1998年版)【黄落】寺内小春「黄落」/【生前】下川博「生前予約—現代葬儀事情—」  
/【魚心】金子成人「魚心あれば嫁心」
- (2001年版)【袖】山内久「袖 振り合うも」/【楽園】萩生田宏治「楽園」/【大地】  
市川森一「大地の産声が聞こえる—15 才いちご薄書—」
- (2002年版)【再会】山田太一「再会」/【天国】松原敏春「天国まで百マイル」/  
【ちゅら】岡田恵和「ちゅらさん」
- (2003年版)【抱き】吉田紀子「抱きしめたい」/【夏の】伊藤康隆「夏の約束」/【北  
の】倉本聰「北の国から」/【ボンソン】長川千佳子「ボンソンファ」
- (2004年版)【さとう】遊川和彦「さとうきび畑の唄」/【センセイ】筒井ともみ「セ  
ンセイの鞆」/【あかね】清水有生「あかね空」/【楽園の】中園健司「楽  
園のつくりかた」

- (2005年版) 【七子】相良敦子「七子と七生」／【4TEEN】齊藤ひろし「4TEEN」／【六月】鄭義信「六月のさくら」／【海峡】池端俊策・神山由美子「海峡を渡るバイオリン」／【不機嫌】大森美香「不機嫌なジーン」
- (2006年版) 【うみ】鄭義信「うみのほたる」／【祖国】山田洋次・平松恵美子・荒井雅樹「祖国」／【火垂る】井上由美子「火垂るの墓」／【女王】遊川和彦「女王の教室」
- (2007年版) 【大麦】前川洋一「大麦畑でつかまえて」／【対岸】神山由美子・藤本匡介「対岸の彼女」／【マチベン】井上由美子「マチベン」／【夕凧】原田裕文「夕凧の街 桜の国」

#### 参考文献

- 黒川直美 (2001) 「日本語母語話者による『励まし』行為の特徴」横浜「言語と人間」研究会 5 月例会研究報告  
<http://sekky.tripod.com/0105kurokawa.html>
- 塩見式子・米澤昌子 (2008) 「『慰め・励まし』の様相—シナリオを例として—」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』18号
- 関山健治 (1998) 「日本語の『慰め・激励』表現にみられる Politeness Strategy—話者の性別と社会変数による影響—」『白馬夏季言語学会論文集』第9号  
<http://sekky.tripod.com/97hakupa.html>
- 中野友貴・正保春彦 (2011) 「励ましの言葉の受け取り方に関する一考察—発話群・発話期待群の比較から—」『茨城大学教育実践研究』30